

27年5月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成27年5月1日～ 27年5月10日

2. 調査実施方法

全国の木材チップ工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
5月分の回答企業数は14社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) チップ用国産原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/5月	6月	7月
入荷動向	スギ・ヒノキ	△ 29.2	△ 20.8	△ 20.8
	マツ	△ 33.3	△ 33.3	△ 33.3
	広葉樹	△ 35.7	△ 39.3	△ 32.1
消費動向	スギ・ヒノキ	△ 9.1	△ 18.2	△ 9.1
	マツ	△ 18.2	△ 18.2	△ 18.2
	広葉樹	△ 11.5	△ 26.9	△ 11.5
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 22.7	△ 27.3	△ 36.4
	マツ	△ 37.5	△ 37.5	△ 41.7
	広葉樹	△ 42.3	△ 34.6	△ 34.6

・チップ用国産原木の入荷、消費及び在庫はどの品目も3ヵ月連続して減少。

(2) チップ用国産原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	27/5月	6月	7月
スギ・ヒノキ	25.0	12.5	9.1
マツ類	16.7	8.3	8.3
広葉樹	7.7	0.0	0.0

・チップ用国産原木の購入価格は、スギ・ヒノキ及びマツ類は3ヵ月連続して強含み、広葉樹は5月のやや強保合が6月、7月は保合に。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

- ・マツ、広葉樹の入荷が鈍い、原木入荷が悪いため消費量も減る、在庫も減る（東北）。
- ・広葉樹の立木手持ち在庫がほとんどない状態、入荷減で在庫減（東北）。
- ・広葉樹は天候回復で増加傾向、針葉樹はシステム販売が始まるまで減少気味、在庫横ばい（東北）。
- ・製紙会社の需要大きいのが原木入らず供給できない（中部）。
- ・変動なし（中国）。
- ・発電事業社の本格稼働で原木取り合いが起こり、仕入・消費減少、在庫減（四国）。
- ・仕入は低調に推移（九州）。

(原木価格)

- ・木質バイオマスの動きに注目したい（東北）。
- ・バイオマス発電の原木価格が定着し値上がっている（中部）。
- ・変動なし（中国）。
- ・変動なし（四国）。
- ・バイオマス発電用、間伐材等は高値と聞くが追随するとチップ価格に反映されず、そこまでは手がでない。それでも製紙用針葉樹、広葉樹発電用とも一年前と比べるとずっと高い（九州）。
- ・現況で推移（九州）。

27年5月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 木材チップの荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/5月	6月	7月
生産動向	スギ・ヒノキ	△ 23.1	△ 31.8	△ 22.7
	マツ類	△ 27.3	△ 27.3	△ 27.3
	広葉樹	△ 19.2	△ 34.6	△ 19.2
出荷動向	スギ・ヒノキ	△ 25.0	△ 33.3	△ 16.7
	マツ類	△ 31.8	△ 31.8	△ 27.3
	広葉樹	△ 21.4	△ 32.1	△ 14.3
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 35.0	△ 35.0	△ 40.0
	マツ類	△ 40.0	△ 40.0	△ 40.0
	広葉樹	△ 36.4	△ 36.4	△ 36.4

・木材チップの荷動きは、生産、出荷及び在庫共にどの品目も3ヵ月連続して減少。

(2) 木材チップ出荷価格動向(自社サイロ下渡し)W

品目	27/5月	6月	7月
スギ・ヒノキ類	13.6	0.0	0.0
マツ類	4.5	0.0	0.0
広葉樹	4.2	0.0	0.0

・木材チップの出荷価格は、どの品目も5月のやや強保合が6月、7月は保合に。

モニターからのコメント

(木材チップ荷動き)

- ・マツ、広葉樹の入荷が鈍い、原木入荷が悪いため消費量も減る（東北）。
- ・入荷減で生産減、出荷は変わらず、在庫なし（東北）。
- ・燃料チップの出荷増加（東北）。
- ・若干、原木の確保が出来たが、継続できる材の確保には至っていない。需要に対して材確保進まず出荷減（中部）。
- ・変動なし（中国）。
- ・燃料用は生産、出荷安定。製紙、ボード用は原木不足で生産減少。出荷減少、在庫減少。燃料用原木も発電事業体の本稼動で原木入荷減にて、生産落込み、在庫減が起こる（四国）。
- ・仕入は5月連休後は通常、6月は梅雨で広葉樹は減るが、針葉樹はシステム販売材の山床材の搬入で入荷増。今月は広葉樹生産が主、来月は機械改修月で生産減。在庫は広葉樹生産が主で大きく減少、針葉樹はこれから増える（九州）。
- ・今月から製紙用広葉樹は増産、針葉樹は製紙各社の点検でやや減産、燃料用は地域の工場が6月から本格稼動（九州）。
- ・注文に応じた生産、出荷（九州）。

(木材チップ価格)

- ・変動なし（中国）。
- ・一部製紙会社にて4月値上がりあり（四国）。
- ・4月に製紙会社の改訂があり、この価格で暫くは推移しそう（九州）。
- ・現状で推移（九州）。